

ひょうごサイエンス・クロスオーバーネット紹介

久保田 宏・伊藤真之（神戸大学）
ひょうごサイエンス・クロスオーバーネット

はじめに

「ひょうごサイエンス・クロスオーバーネット」（略称「クロスネット」）は、兵庫県を中心として、地域で広い意味の「科学コミュニケーション」に取り組む幅広い人々のネットワークです。クロスネットは、（独）科学技術振興機構（JST）の「地域ネットワーク支援」を受け（2008-2010年度）、活動を展開してきました。神戸大学が運営機関、兵庫県（産業労働部）を連携自治体として、兵庫県立人と自然の博物館、（財）ひょうご科学技術協会、大学コンソーシアムひょうご神戸、兵庫県立大学、株式会社神戸製鋼所 灘浜サイエンススクエアなどのほか、サイエンスカフェを開催する市民グループ「サイエンスカフェはりま」、「サイエンスカフェ伊丹」、「くましろふれあい広場」など、約20の多様な機関、団体などが参加しています。

クロスネットの活動

クロスネットは次のような活動を進めてきました。

- (1) 兵庫県各地の市民グループ等が主催するサイエンスカフェの開催支援
姫路を中心とした播磨地域、伊丹、南あわじ、神戸、三田などで市民グループが開催するサイエンスカフェや、（財）ひょうご科学技術協会と大学コンソーシアムひょうご神戸が主催する「サイエンスカフェひょうご」の開催に協力しています（豊岡、篠山、西宮、淡路など）。
- (2) ひょうごサイエンスフォーラムの開催
兵庫県の広い意味の科学コミュニケーションに取り組む人々、関心を持つ人々の交流、情報交換とそれを通じて新しい連携を生み明日ことを目的として、年に一度フォーラムを開催しています。
- (3) サイエンスツアーの実施
これまでに、丹波の恐竜化石発掘現場、野島・布引断層、オオサンショウウオの保全に取り組む日本ハンザキ研究所、淡路島と尼崎の海浜環境の見学などのツアーを実施しました。2月には西はりま天文台公園へのツアーを予定しています。
- (4) 兵庫県の科学コミュニケーションに関するウェブページの開設と運用
ほか

むすび

JSTによる支援は、2010年度で区切りとなりますが、3年間の取組を通じて形づくられたネットワークを継続、発展させて、サイエンス・コミュニティ（科学が人々の身近にあり、科学者と市民の対話と協働が行われる地域社会）の醸成を進めてゆきたいと思えます。



図 淡路島へのサイエンスツアーの様子。
水質測定なども行った。